

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。  
 ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載  
 ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載  
 ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載  
 ※4 5回線送電線(5バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し4回線(4バンク)分の容量を記載  
 ※5 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮  
 ※6 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。  
 (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。  
 (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。  
 #1 基幹系ループ系統のため  
 #2 1回線送電線のため  
 #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため  
 #4 配電用変電所のため  
 #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)  
 #6 2回線送電線の分割運用のため
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。  
 (6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方\*に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。  
 \* [https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330\\_souteichoryu\\_gourika\\_shiryuu.html](https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryuu.html)
- (7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。  
 (8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。  
 (9) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開しておりません。  
 (10) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

〔7 東福岡地区〕

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	平常時出力制御の可能性	平常時出力制御が必要となりうる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系等設備	
1	東福岡住吉線	220	3	902	657	熱容量	657	657	可	244	—	—	—	※2
2	篠栗分岐線	66	2	184	105	熱容量	105	105	可	78	—	—	—	
3	東福岡長者原線	66	2	226	124	熱容量	124	124	可	101	—	—	—	
4	東福岡亀山線	66	2	173	86	熱容量	86	86	可	86	—	—	—	
5	東福岡多の津線	66	2	260	130	熱容量	130	130	可	130	—	—	—	
6	多の津箱崎線	66	2	88	48	熱容量	48	48	可	39	—	—	—	
7	多の津箱崎浜線	66	1	93	93	熱容量	85	85	不可 #2	—	—	—	—	※1
8	東浜古門戸線	66	2	194	106	熱容量	106	106	可	87	—	—	—	
9	千代分岐線	66	2	196	107	熱容量	107	107	可	88	—	—	—	
10	住吉古門戸線	66	2	198	108	熱容量	108	108	可	89	—	—	—	
11	古門戸土居町線	66	1	32	32	熱容量	32	32	不可 #2	—	—	—	—	※1
12	住吉土居町線	66	1	40	40	熱容量	40	40	不可 #2	—	—	—	—	※1
13	住吉中洲線	66	2	72	36	熱容量	36	36	不可 #3	—	—	—	—	
14	箱崎浜東浜線	66	1	87	87	熱容量	81	81	不可 #2	—	—	—	—	※1
15	多の津東浜線	66	1	97	97	熱容量	93	93	不可 #2	—	—	—	—	※1
16	叢島堅粕線	66	2	#REF!	#REF!	熱容量	51	51	可	42	—	—	—	
17	叢島住吉線	66	2	274	150	熱容量	150	150	可	123	—	—	—	
18	叢島竹下線	66	2	184	101	熱容量	101	101	可	82	—	—	—	
19	野間叢島線	66	2	200	110	熱容量	110	110	可	90	—	—	—	
20	住吉須崎線	66	2	174	95	熱容量	95	95	可	78	—	—	—	

【7 東福岡地区】

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100%×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御 の可能性	平常時出力制御が必要となりうる設備		備考
							当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系等設備	
21	天神須崎線	66	1	132	132	熱容量	132	115	不可 #2	—	—	—	—	※1上位系(送電線No.22 住吉天神線)による制約
22	住吉天神線	66	1	115	115	熱容量	115	115	不可 #2	—	—	—	—	※1
23	堅粕住吉線	66	1	52	52	熱容量	52	52	不可 #2	—	—	—	—	※1
24	堅粕竹下線	66	1	42	42	熱容量	42	42	不可 #2	—	—	—	—	※1
25	貝田線	22	1	16	16	熱容量	16	16	不可 #2	—	—	—	—	※1
26	萬田線	22	1	16	16	熱容量	16	16	不可 #2	—	—	—	—	※1
27	阿恵線	22	1	16	16	熱容量	16	16	不可 #2	—	—	—	—	※1
28	空港1番線	22	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	—	—	—	—	※1
29	空港2番線	22	1	10	10	熱容量	10	10	不可 #2	—	—	—	—	※1
30	江辻線	22	1	16	16	熱容量	16	16	不可 #2	—	—	—	—	※1

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
- ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
  - ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
  - ※3 4回線送電線(4バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し3回線(3バンク)分の容量を記載
  - ※4 5回線送電線(5バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し4回線(4バンク)分の容量を記載
  - ※5 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
  - ※6 ループ系統構成(電源線を含む)を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
- #1 基幹系ループ系統のため
  - #2 1回線送電線のため
  - #3 1バンク変電所(分割運用等含む)のため
  - #4 配電用変電所のため
  - #5 安定度制約のため(制約が確認できているもの)
  - #6 2回線送電線の分割運用等のため
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変更となる場合があります。
- (6) 平常時出力制御が必要となりうる設備欄は、平常時出力制御が発生する可能性について、想定潮流の合理化の考え方に基づいた将来の発電機出力・電力需要から想定し、該当設備を記載しております。  
\* [https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330\\_souteichoryu\\_gourika\\_shiryoyu.html](https://www.occto.or.jp/access/oshirase/2017/180330_souteichoryu_gourika_shiryoyu.html)
- (7) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (8) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (9) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開していません。
- (10) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

[7 東福岡地区]

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	平常時出力制御の可能性	平常時出力制御が必要となりうる設備		備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系等設備	
1(1)	東福岡	220	66	2	522	285	熱容量	285	285	可	237	—	—	—	
1(2)	東福岡	66	6	3	76	76	熱容量	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
1(3)	東福岡	66	22	1	19	19	熱容量	18	18	不可 #4	—	—	—	—	
2(1)	住吉	220	66	3	855	651	熱容量	651	651	可	203	—	—	—	※2
2(2)	住吉	66	6	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
2(3)	住吉	66	22	2	76	76	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
3	篠栗	66	6	3	69	69	熱容量	17	17	不可 #4	—	—	—	—	
4(1)	長者原	66	6	3	76	76	熱容量	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
4(2)	長者原	66	22	1	19	19	熱容量	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
5	多の津	66	6	1	28	28	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
6	箱崎	66	6	1	28	28	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
7	箱崎浜	66	6	2	47	47	熱容量	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
8	東浜	66	6	2	38	38	熱容量	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
9(1)	千代	66	6	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
9(2)	千代	66	22	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
10	古門戸	66	6	3	47	47	熱容量	14	14	不可 #4	—	—	—	—	
11	土居町	66	6	2	38	38	熱容量	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
12	中洲	66	6	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
13	亀山	66	6	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
14	養島	66	6	3	64	64	熱容量	14	14	不可 #4	—	—	—	—	

【7 東福岡地区】

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100%×台数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用 可否	N-1電制 適用可能量 (MW)	平常時 出力制御 の可能性	平常時出力制御が必要となりうる設備		備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮				当該設備	上位系等設備	
15	竹下	66	6	3	81	81	熱容量	24	24	不可 #4	—	—	—	—	
16(1)	堅粕	66	6	3	61	61	熱容量	14	14	不可 #4	—	—	—	—	
16(2)	堅粕	66	22	1	47	47	熱容量	47	47	不可 #4	—	—	—	—	
17(1)	須崎	66	6	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
17(2)	須崎	66	22	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
18(1)	天神	66	6	2	38	38	熱容量	19	19	不可 #4	—	—	—	—	
18(2)	天神	66	22	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
19	今泉	66	6	2	57	57	熱容量	28	28	不可 #4	—	—	—	—	
20	久山	22	6	1	9	9	熱容量	9	9	不可 #4	—	—	—	—	
21	寺浦	22	6	1	9	9	熱容量	9	9	不可 #4	—	—	—	—	